

「第52回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー」

◆講師◆ 小暮敏博 先生
東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻 教授

◆演題◆

電子顕微鏡で粘土の原子配列はどのように見えるか

◆日時◆ 令和元年11月25日(月) 午後14時半～15時半

◆場所◆ 稻盛記念会館 視聴覚室 (2階)

講演内容:

粘土あるいは粘土鉱物は地球表層をあまねく覆い、そこでの物質循環や生物・人間活動に深く関わっている。しかし粘土鉱物は一般に低温で形成され、その複雑な組成のために非常に細粒な物質として存在し、また層状珪酸塩という異方性の大きい結晶構造により多型・積層不整や混合層の形成といった複雑で不均一な構造変化を伴っている。そのため、粘土鉱物の構造やその形成機構には多くの未解明な点が残され、その物性の理解を阻んでいる。演者は長年高分解能透過電子顕微鏡(HRTEM)を用いて、粘土鉱物あるいは層状ケイ酸塩の結晶構造の解明に従事してきた。その原子配列を直接観察することにより、粘土鉱物についてのどのような理解が進んだか、いくつかの研究成果を紹介する。

多数の皆様のご来聴を歓迎いたします。

◆連絡先◆ 中尾 淳・矢内 純太(土壌化学研究室)
Atsushi NAKAO (Lab. Soil Chemistry)
E-mail: na_4_ka_triplochiton@kpu.ac.jp Phone: 075-703-5652
Room1106(1号館1階), Kyoto Prefectural University